

## ■「効果の見える治水事業」

### 香川県 弘田川(多度津町)の治水事業

#### 『弘田川広域河川改修事業』

香川県中讃土木事務所長 樋口 晋



弘田川は、香川県中讃地域に位置しており、その源を普通寺市大麻町の大森山におおきやまに発し、普通寺市弘田町、仲多度郡多度津町において支川を束ねながら北へ流下し、瀬戸内海に注ぐ流路延長約7.5km、流域面積約34km<sup>2</sup>の二級河川です。

その流域は、普通寺市、多度津町にまたがり、中讃地域における社会、経済の基盤をなしています。川沿いに形成された平地は水田として広く利用されているほか、中流域では住家が連たんし、大型商業施設が立地するなど、市街化が進んでいます。

本河川においては、昭和44年より中小河川改修事業として河口から水月橋に至る約1.7km間の引堤や掘削による河積の拡大ならびに護岸の整備を実施しており、現在に至っています。

これまでに弘田川は、流下能力不足のため、度々台風などの大雨によって氾濫を繰り返し、浸水被害が発生してきました。特に香川県全域に甚大な浸水被害をもたらした平成16年台風23号による出水では、弘田川沿川の多度津町などにおいて約69万m<sup>2</sup>の浸水被害が発生しました。

こうしたことから、年超過確率1/30の規模の洪水を安全に流下させることを目標として、平成22年度に水月橋から山階橋までの約0.6km間の改修に着手し、現在、用地買収を進めながら、掘削、築堤、護岸整備、狭窄した橋梁等大規模構造物の改築を行っています。

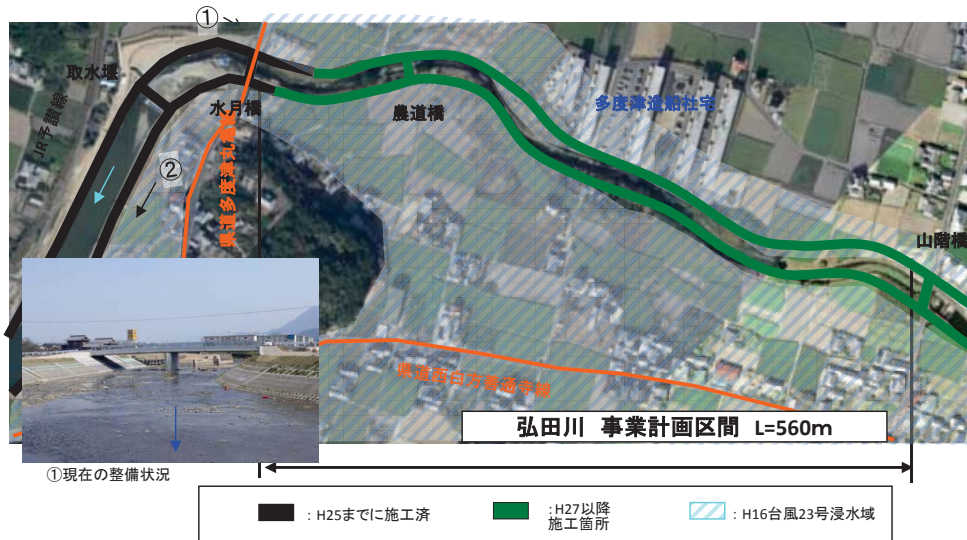
近年では、平成23年度に度重なる台風による洪水が発生しましたが、改修済区間においては、目立った浸水被害が無く、これまでの改修により、治水効果が最大限に発現されています。治水安全度の更なる向上を目指し、引き続き、広域河川改修事業として、築堤や河道拡幅等の改修工事を行います。

今後とも、流域の県民の安全・安心の確保を目指して、関係機関と連携し、地元住民のご理解ご協力を得ながら、治水事業を推進してまいります。

#### 位置図



②平成16年10月台風23号による浸水状況



## 『住民共助で災害に強いまちづくりへ』

多度津町長 丸尾 幸雄



多度津町は、香川県の中北部に位置し、南は讃岐平野、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園に接しており、海上部の高見島、佐柳島を含め、総面積24.34km<sup>2</sup>で、人口23,800人の町であります。古くから海上・陸上交通の要所として栄え、明治に入り、四国最初の鉄道が開通したことで、鉄道と港の利点を生かした陸海交通の要衝として発展し、現在もJR四国の予讃線と土讃線の分岐点として多度津駅は、重要な役割を果たしています。また、多度津港周辺は、昭和49年に190万m<sup>2</sup>の臨海土地造成事業を行い、現在は約50社の企業を誘致し、近代工業都市へと変貌しています。

町制施行は明治23年2月15日に多度津村と新町村を併せて誕生。昭和17年に豊原村、昭和29年に四箇村と白方村と合併し、昭和31年に高見島村・佐柳島村を合併し現在に至っております。

現在、町としての様々な重点施策の内、防災対策については最重要課題に位置づけ「災害に強いまちづくり」を目指しております。町内には中心部を流れる桜川、西部には背後に豊かな農地や畑地が形成されている中を弘田川が流れており、普段は穏やかな流れですが、台風やゲリラ豪雨時には、ガラリと様相を変えます。昭和58年(台風10号)では、町の3分の1が冠水し、弘田川沿岸部に甚大な被害をもたらしました。以後改修事業も順調に進んでいますが、計画区間の早期完成を願うものです。

多度津町では、「災害に強く住民同士が協力して災害から身を守る強いまちづくり」を進めるため、津波ハザードマップや土砂災害ハザードマップ、洪水ハザードマップなどを作成して住民の防災意識の向上を図るため、「自主防災組織」の設立・加入の推進をしていくとともに、防災資機材についても引き続き助成を実施してまいります。

これからも、災害時の対応について、各種団体との応援協定や近隣市町、香川県と協力して「災害に強いまちづくり」に努めてまいりたいと考えております。



昭和58年台風10号による被災状況



住民との合同防災訓練